

土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、 地震・災害のしくみと防災のあり方



名古屋大学災害対策室
歴史災害教訓伝達プロジェクト
～1944東南海・1945三河地震

総合的な学習「防災学習」年間プログラムを構想する

①問題を見つける

自分の問題としてとらえる



鈴木敏枝さん 当名美代さんへ
 このたびは地震について多く教えていただき、ありがとうございました。私達は生まれてから大きな地震は体験していません。でもお二人のお話を聞いて地震の事が前よりわかることができました。地震がどんなにこわいのか。女城市は63年も大きな地震が来ていません。なのでいっ来るかわかりません。私は地震が来てもよいように準備をして、何をすればいいか頭の中に入れて自分の身を守りたいです。地震の事を教えていただき本当にありがとうございました。

②追究する

問題解決のための調べ学習

「地域」学習

- ・聞き取り
- ・マップ作り



宇頭茶屋町
 ・余震で田んぼを耕す牛が立てなくなって人の手でやった
 ・壊れた家もあり、神社では灯ろうやこま犬が倒れた
 ・家が全壊して、外にわら小屋を造って生活した
 ・地震からお風呂に入れず髪の毛にしらみがわいた

③表現する

まとめ作り

学芸会の劇での再現・発信

地震への対策 中根史貴
 大きな地震での直接死の死因は、8割以上が家屋の倒壊の圧死が原因。
 家具を固定する。
 1.タンス、棚
 1. 字金具などで固定する。また脚を使用する場合は壁側に設置し、床との間に地震用ゴム、手前側(壁の反対側)に入るとよいとされている。両側きタイプのもは扉が開かないように止め金具を付ける。
 2. テーブル
 家具の上などには置かす。できるだけ低い位置に固定して置く。
 3. 窓
 窓はカーテンを引いて窓を隠蔽すると安全。
 4. 照明器具
 つり上げ式はチェーンと金具を使って止め、壁には壁紙の両端を耐熱性のテープで止める。
 5. 暖房器具
 ストープは耐震自動消火装置付きのものを使用する。用際に燃えやすい物を置かない。
 6. 冷蔵庫
 針金を通して壁などに固定する。転倒防止ベルトも使ってもよい。
 総論
 (多くは地震が来た後、倒壊しないものがあるが、倒壊する家具を固定する以外に4階層工事をして、床を強化し、壁を強化するなどの工夫があります。よく強い地震でなければ倒壊することはありません。地震が起きたら、まず身の安全を確認し、倒壊しないものを固定し、倒壊した場合は、倒壊した家具の下には絶対に入らないようにしてください。)



④自己を考える

行動目標をもつ



三河地震被災体験談からの想い

1. 2時間で学べるプログラム（複数クラスの児童向け）

9月24日 安城市立 祥南小学校（2時限連続）



地震についての解説（ブラジル人なども対象にしたもの）



被災体験の語りつぎ。学年人数が多いため、体育館で行われた



司会との対話形式により、授業時間に収まる時間で効果的に語りつぐ



安城市防災リーダーによる建物被害のイメージ体験



2時限目はいくつかの屋台を児童が回る（避難時に必要な道具）



身近なものを活用することで、震災時に必要なものを作ろう体験

1月13日 安城市立 桜林小学校（2時限連続）



三河地震64年目の日に開催。全壊率90%以上の集落もあるため、集落被害などについても解説



被災者の体験談。時間管理をして、9月の祥南小学校(15分)よりも10分多い25分を確保できた



屋台の内容も一部改良。避難時に必要な道具について、ピンゴ形式で知ることができる



9月の祥南小学校では公団居住者が多かったが、今回は一戸建てが多く、児童の興味をより多くひく



手をうごかしながらモノを作る屋台は児童に大人気（ゴミ袋でレインコートを作る）



屋台全景。体育館の前半分で講義・体験談を聞いたあと、後ろ半分で屋台をまわる

2. 1年間にわたるプログラム①（1クラスの児童を対象）

7月11日 導入（安城市立 志貴小学校（2時限連続））



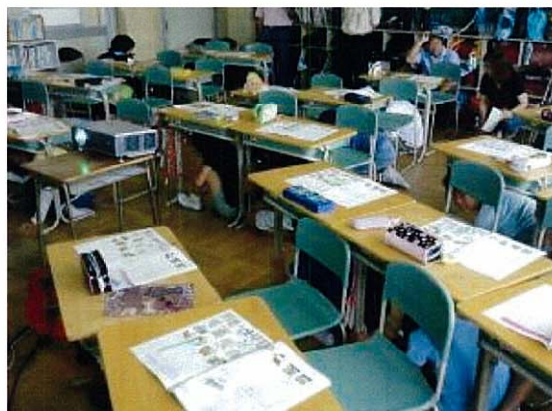
地震についての解説（地震学者）



被災体験の語りつぎ（体験談の絵を背景にして語りつがれる）



ドリルによる知識定着型のふり返り学習



地震が来た！ときのいのちを守る演習

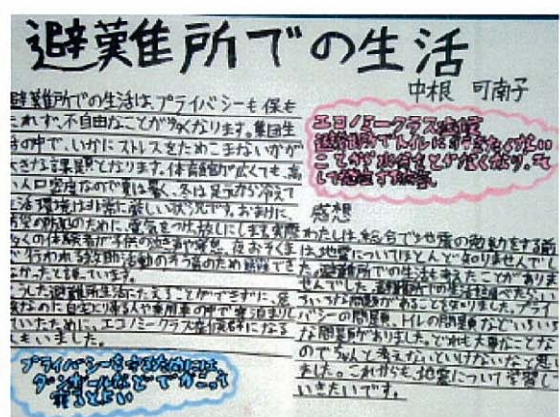
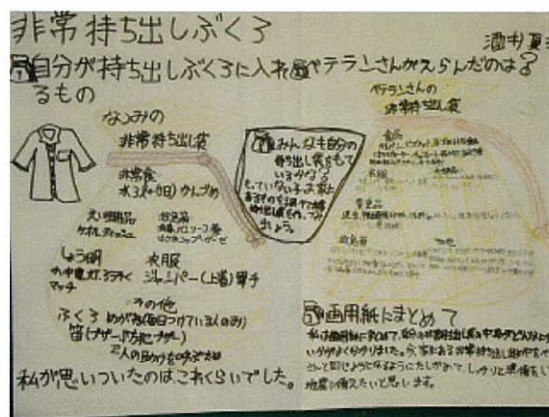
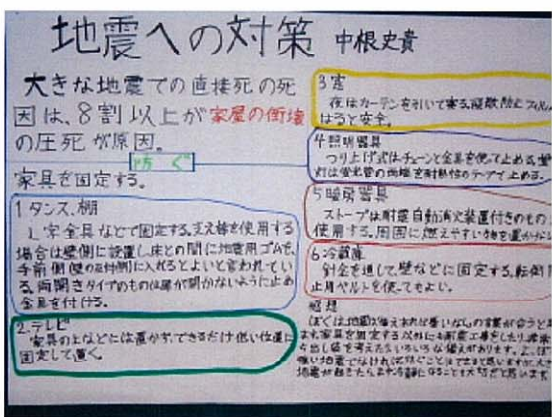


ドリル学習で使用した手作りドリル被災者の被災体験をふり返りながら災害・防災の知恵を学べるように工夫している

鈴木敏枝さん 当名美代さんへ
このたびは地震について多く教えていただきありがとうございます。私達は生まれてから大きな地震は体験していません。でもお二人のお話を聞いて地震の事が前よりも知ることができました。地震がどんなにこわいかわ。安城市は63年も大きな地震が来ていません。なのでいっ来るかわかりません。私は地震が来てもいかに準備をして何をすればいいか頭の中に入れて自分の身をまもりたいです。地震の事を教えていただき本当にありがとうございました。

←子どもたちの感想

→↓その後のさまざまな調べ学習の一部



2. 1年間にわたるプログラム②（1クラスの児童を対象）

11月15日 学芸会での防災劇上演（安城市立 志貴小学校）



劇は、被災した2人の姉妹の想起のかたちで進行する



劇のそれぞれの場面には、災害の事実・防災の教訓が含まれている



←招待された被災者姉妹

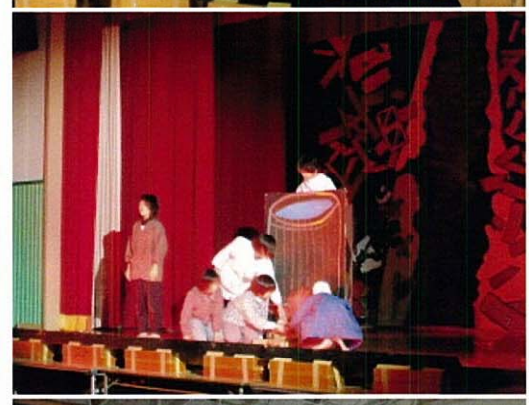
三河地震を創作劇に

安城市立志貴小学校 被災者の体験談聞き

安城市立志貴小学校の6年生入りの1日目の学芸会で、被災者から聞き取った三河地震の体験談を基に、児童らが創作した防災劇が上演された。児童らは、被災者の体験談を聞き取り、その内容を基に、防災劇の脚本を完成させた。劇は、被災した2人の姉妹の想起のかたちで進行する。劇のそれぞれの場面には、災害の事実・防災の教訓が含まれている。



毎日新聞(11月15日朝刊)が上演をPRしてくれる



真剣なまなざしで見つめる観客と被災者姉妹（右手前）



←最後は、三河地震の被災体験絵画を写しながら合唱する

12月12日 フォローアップ授業（安城市立 志貴小学校（2時限連続））



専門家による講義のあと、児童議論会によって「地震後の適切な対応の仕方」を児童自身で考える



↑朝日新聞（12月3日）に試みがとりあげられる

人間にも心のブレーカーというのがあつたのを知り、失見当にみんながなるというのを知った。

児童による感想

失見当のことを知らない人におしえてあげようと思った。訓練をもっとちゃんとやって、いざというときにあわてなくてすむようにしたいです。



問題を見つける

地震について知ろう

3 時間

- ・地震のメカニズムと被災地の様子を知る。
- ・三河地震の被災体験談を聞く。
- ・被災体験談の感想と自分の考えをまとめる。

追究する

自分たちの地域を調べよう

1 5 時間

- ・学区の被災者から話を聞く。

町別の防災マップ作りをしよう

- ・手順を考えてマップを作る。

命を落とす原因を調べよう

- ・命を落とす原因を予想し、話し合う。
- ・調べ学習（インターネット等）をする。

どんな備えが必要か

- ・家具の固定、持ち出し袋の準備など

表現する

大切だと思ったことをまとめよう

1 8 時間

- ・地震はなぜ起きる、その怖さ
- ・死因（直接、関連）、防ぐには
- ・あると便利な物（非常持ち出し品の充実、おすすめ品）
- ・災害の前と音の生活の違い
- ・避難所での生活

学芸会で三河地震の教訓を伝えよう

- ・実際に聞いた被災体験談を劇で再現する。

自己を考える

これまでの学習を振り返ろう

6 時間

- ・被災時の精神状態を知る。
- ・行動つながる場面設定で話し合う。
- ・家族防災会議をする。
- ・防災ハンドブックを完成する。
- ・学区の防災マップと被災体験集の配布をする。